

## 第40回 静岡県つま恋ユースU-11トレセン・8人制サッカー大会 視察報告

報告者：ユースダイレクター石井知幸

- 目的：4種年代の課題の共有
- 対象者：4種指導者を中心とした静岡県育成指導者
- 日時：H26年2月15日（土） 16日（日）
- 場所：掛川つま恋グラウンド

### ■感想および意見

蹴ること（パスの質）についての考察・・・ボールの置き場所にフォーカスして

今大会参加チームのすべてが、しっかりとパスをつないで、相手陣内にボールを運ぶことにTRYしていた。全体的には、4年生しんきんカップの大会で見られたような、1人の選手が、ドリブルで相手陣内にボールを運べる（運ぶ）プレーは少なくなり、1人の選手がボールを持てる時間が少なくなるため、ドリブル多用から、パスの頻度が多くなる時期と考える。しかし、まだこの年代の多くの選手は、動きながら（相手のプレスのなかで、自分も味方も動いている状況で）のパスの精度は低い。相手のプレッシャーを、ボールを動かしながら回避し、味方の動くタイミングや、味方のポジションを確認する作業をしながら、パスを出すという一連のプレーのなかで、ほとんどの選手が、ボールをしっかりと蹴れる場所に置いていないと感じた。ボールをしっかりと蹴るには、しっかりと蹴れる場所にボールを置かなければならず、置き場所（コントロール）が悪いのに、蹴ってしまい、結果として質の低いパスでロストボール(相手のボール)になってしまっていた。

コントロール～パスまでのプレーを、プレッシャーのある中で動きながらできるか？

質の高いパスを成功させるためには、多くの要素があるが、プレー中のボールの置き所は適切か？にフォーカスして選手観察を行ってみるのはどうだろうか。（ボールをスムーズかつ意図的に蹴れる場所にボールを置く。適切に蹴れるような場所に体を運ぶ・体を向ける）